

京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科
フィールドワーク・インターンシッププログラム 2011 年度 JASSO 派遣報告書

報告者氏名 内山明子

18 年度 (入学・編入)

1. 研究課題:

現代イランにおける女性の社会参加—親密圏に着目して

2. 派遣期間:

平成 24 年 1 月 4 日 ~ 24 年 1 月 19 日 (16 日間)

3. 今回の派遣により、申請時に自身の目的としてあげた点について得られた知見を述べてください

今回の調査での成果は、以下の二点である。

まず、博士論文のテーマに関しての示唆を得られた。報告者は、女性が日常的に集まる場所を調査の対象とし、そこで彼女たちが作り上げる関係性を分析しようと考えている。調査中、そのような場所を訪れるうち、女性の社会的属性がそれぞれの場所で特徴を持っていること、そのため場所の特性だけでなくその属性にも着目する必要があることに気付いた。報告者の最終的な目的は、女性が織り成す関係性の分析を通して、女性がイラン社会と現在どのように関わっているのか、また今後どう関わっていくのかを明らかにすることである。したがって、今回の調査から、ライフコースを描いている途上にある 20 代の女性を主たる被調査者にするのがよいのではないかと考えている。

次に、市内の書店において、文献収集の他にも聞き取り調査を行い、各書店の動向を把握した。この結果は、京都大学イスラーム地域研究センター発行の『イスラーム世界研究』に投稿する予定である。

4. 自身の今後の海外への渡航や留学に向けた課題や展望について

報告者は来年度から 1 年間、長期でフィールドワークを行う予定である。このため今回の渡航中、ペルシア・アカデミーの事務局長であるナスィーリー教授をはじめとする研究者の方々と面会し、長期調査における協力を約束していただき、調査に不可欠な受け入れ態勢を確保できた。

出発するまでに、収集した文献の読解を進めるほか、ワークショップでの発表も意欲的に行う。インプットとアウトプットの繰り返しによって、博士論文の構想をさらに具体化・精緻化し、より充実した調査ができると考えられる。

5. 本プログラムに関して意見をお聞かせください。また、今後どのような留学プログラムがあれば参加したいですか？

短期の海外渡航をする場合に申請できるプログラムはかなり少ないため、本プログラムの経済的な援助は非常に貴重であった。

しかし、調査国によって渡航や滞在にかかる費用は著しく異なる。このため、現地の物価に見合った援助が可能なプログラムがあればまたぜひ参加したい。

署名